

福祉サービス第三者評価結果報告書（2019年度）

2020年3月19日

社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会
京都市崇仁児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)
電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	阿南健太郎	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
②	伊藤 義則	児童健全育成推進財団 第三者評価室所属評価者	
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	京都市崇仁児童館		
施設連絡先	所在地	〒600-8202 京都市下京区川端町 13	
	電話番号	075-341-6802	
施設代表者氏名	館長 吉田 由紀子		
契約日	2018年6月12日		
自己評価票回答期間	2019年11月5日～2019年12月3日	館長・事務局回答項目	
職員調査票回答期間	2019年11月22日～2019年12月6日	職員回答項目	
訪問調査日	2020年1月17日		

京都市崇仁児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1	事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している	
	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○
	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○
	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○
【講評】		
法人としての基本理念を掲げ、児童館としての活動を関連付けて運営しています		
① 法人では、「一人ひとりに寄り添う」という理念を大事にしています。利用者をかけがえのない存在と認識し、児童館としてそれをどのように実現していくかをいつも考えています。理事長はこの考えを、直接面談を通じて、職員に伝えています。		
② 法人では、児童館2館を運営しています。約2ヶ月に1度のペースで、それぞれの館長・主任が集まる会議を設定しています。近距離にある児童館のため、連携して事業を実施することもあり、状況を確認し、共有する会となっています。法人としての動きや考えも共有する重要な場です。		
③ 地域の歴史的な背景なども学ぶ機会をもち、館長を含む経営層は実情に即した運営を心がけるよう努力をしています。		

II. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		—
2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3. 利用者や地域住民を対象としてボランティア育成をおこなっている		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 地域の関係機関のネットワーク（連絡会など）に参画している		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
3. 小学校等利用者が関係する機関との連携を図っている		○
【講評】		
地域社会から求められる施設運営を心がけて、様々な関係機関とつながっています		
① 法人内の各施設には研修担当を設定し、職場環境に関して年に1回の合同研修を実施しています。講師選定など担当が検討しています。しかし法人としては多種多様な施設を運営しているため、共通するテーマを見出すことに苦労しています。		
② 崇仁児童館として第三者評価を受審するのは初めてのことです。今後も透明性を確保するために、評価結果の公表や、児童館だよりやホームページの充実をはかれることが期待されます。現状は行事予定等が主な紙面となっているため、事業所の情報が不足しています。		
③ 近隣のデイサービス等と連携しています。子どもたちとお年寄りの交流場面だけではなく、地域行事などでも職員によるレクゲームの提供など職員の能力活用が図られています。		
④ 児童館のすぐ裏にあった旧崇仁小学校PTAのOBらが立ち上げた「教育連絡会」という地域児童のためのボランティア組織があります。毎月学習ひろばと称して、さまざまな体験活動を提供しています。児童館も連携し、共に地域の子どもたちを見守ったり、支えたりする活動を展開しています。また、教育連絡会		

主催の「教育ネット会議」に参加し、長期的な地域児童の育成に関する共有する場として大切にしています。

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

【講評】

利用者や地域のもつニーズの把握のための努力があります

- ① 乳幼児クラブや学童クラブの保護者、行事の参加者に対しアンケートを実施しています。利用者の意向を把握し、取り組み内容等の改善を図っています。また、関係機関や地域の福祉施設からの情報収集を積極的に行うことにより、活動の幅を広げることや地域ニーズに応じたものにすることができています。
- ② ご意見箱を設置し、苦情等を受け止め対応する仕組みを整えています。学童クラブの保護者などとはできる限り対面でお話しできるように体制を整え、早期の対応ができるようにしています。

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している		—
2. 年度単位の計画を策定している		○
3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる		○
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている		○
2. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している		○
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している		○
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している		—
2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している		○
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○
3. 利用者の負傷等に対応する傷害保険に加入している		○
4. 賠償すべき事故に対応する損害賠償保険に加入している		○
【講評】		
中期的なビジョンの明確化と単年度計画の評価の仕組みづくりが期待されます		
① 単年度の事業計画は立案されて、計画的に実行しています。ただし、評価については、行事等のふり返りを職員会議で実施することや反省事項の記録程度に留まっています。目標達成に関する意識の醸成が期待されます。		
② そのためにも中期的なビジョンが明確化されることが必要と思われます。崇仁地区では再開発や大学のキャンパス移転、拠点保育所の移転など、ここ数年の間に大きな変化が起きます。それを見越した児童館や法人としての方向性を検討しておくことが期待されます。		
③ 災害対応や事故防止、苦情対応、不審者対策等の各種マニュアルが整備されています。館内の掲示等も図説するなど、子どもたちにも安全を学ぶ機会を提供しています。収納が廊下等に出ていることや転倒防止の状態が気になりました。物理的な問題のため難しさはありますが、安全への配慮が期待されます。		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している		○
2. 採用に対する明確な基準を設けている		○
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		—
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている		○
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		—
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている		—
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる		○
【講評】		
定期的な面談や課題提出等を通じて、人材育成を図っています。		
① 職員研修の一環として、約半数の職員が半年間かけて月に1回の課題レポート作成に取り組んでいます。レポートは理事長が目を通し、それに基づく面談を実施しています。子ども理解、指導力、現状と課題分析等のテーマを通じて、個別的に指導しています。職員が記述、説明をすることにより、客観性と実効性を担保することに繋がっています。		
② 半期に1度は児童館部門の合同研修も設定し、課題レポート等をまとめた職員による発表機会があります。法人内でのチームビルディングにもつながり、効果的な研修機会となっています。		
③ 研修報告はファイリングされており、全職員がアクセスできるようになっています。また職員会議でも報告をしてもらい、学びを共有する機会を作っています。職員も積極的に研修に参加しており、参加希望もかなえられるよう館長は努力しています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供		
1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している		
1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている		非該当
5. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている		○
<p>【講評】 広報活動を積極的に展開することが期待されます</p> <p>① 児童館のおたより、京都市児童館学童連盟提供のホームページを活用して、広報活動を実施しています。おたよりは、乳幼児用とそれ以外の自由来館者向けと分けて作成されています。近隣の小学校のクラスに1枚ずつ、保育所にも配布しています。</p> <p>② 下京区内の児童館が合同で乳幼児検診において、児童館の紹介をしています。崇仁児童館としての参加しており、チラシを配布するなどの広報活動を展開しています。</p> <p>③ 今後、ターゲットをより明確にしたチラシやおたよりの作成、配布先の検討が期待されます。現在のものでは、リピーター向けのように感じ、新たな利用者獲得には少し難しいように感じます。広報戦略の検討を期待します。</p>		
2 サービスの実施		
1 遊びの環境整備を行っている		
1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている		○
2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある		○
3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している		○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている		○
<p>【講評】 基本的な遊びの環境設定に加えて、地域の資源を活用する努力があります</p> <p>① 利用にあたっての決まり事は、必要最低限の掲示にとどめ、子どもたちのなかで、口伝えで伝え合うことにより、自分たちの遊びの場であることを認識してもらうようにしています。</p> <p>② 館には十分な外遊びをおこなうスペースがありません。そのため隣接する廃校になった小学校の校庭を週に1～2回借用して、思う存分走り回れるような環境を整えています。</p> <p>③ 高瀬川という小川が流れています。地域の環境保全団体や京都市立芸術大学の学生と共に、生態調査や川の清掃活動を展開しています。地域の資源を活用した遊びの展開が見られます。</p>		
2 乳幼児と保護者への対応を行っている		
1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している		○
2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている		○
3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している		—

	<p>【講評】 保護者が利用しやすい環境づくりを模索しています</p> <p>① 一杯 100 円のセルフサービススタイルでのカフェが好評です。乳幼児親子の滞在時間が長くなり、ランチを児童館でとる姿も増えました。居心地のよい雰囲気になるよう職員は心がけています。</p> <p>② ひろばや0歳児教室でつながった保護者が連れ立って集まる様子も見られ、児童館が乳幼児親子のコミュニケーションの場として認知されています。トイレは清掃チェック表などを効果的に利用し、綺麗に清掃されています。多目的トイレにはおむつの交換台も設置されています。</p> <p>③ 活動は受動的なものが多いようです。京都駅からも徒歩圏内という地の利を活かすと、多くの利用者が見込まれるところです。今後は乳幼児を育てる保護者の主体的な活動を生み出す工夫が必要になると思われます。</p>								
3	<p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1" data-bbox="231 734 1492 1014"> <tr> <td data-bbox="231 734 1332 779">1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している</td> <td data-bbox="1332 734 1492 779">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 779 1332 857">2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td> <td data-bbox="1332 779 1492 857">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 857 1332 936">3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている</td> <td data-bbox="1332 857 1492 936">○</td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 936 1332 1014">4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td> <td data-bbox="1332 936 1492 1014">○</td> </tr> </table> <p>【講評】 自由来館児童を増やす努力が期待されます</p> <p>① 学童クラブ事業が中心的な状況にあることは理解できますが、児童館としての基本機能である自由来館をどのように増やしていくのか、どのような児童館像が適しているのかビジョンを持つことが重要かと思えます。</p> <p>② 活動のなかでは、不安を抱える自由来館児童や、障害のある子どもがヘルパーと来館するなど、多彩な子どもたちが利用していることがわかりました。インクルーシブな児童館の特性をいかしています。</p> <p>③ 常連となっている子どもたちや学童クラブの卒会児を戦略的に巻き込みながら、自由来館児童を増やすことが可能ではないかと拝察しました。</p>	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○	2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○
1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○								
2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○								
3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○								
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○								
4	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1" data-bbox="231 1572 1492 1650"> <tr> <td data-bbox="231 1572 1332 1617">1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある</td> <td data-bbox="1332 1572 1492 1617">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1617 1332 1650">2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している</td> <td data-bbox="1332 1617 1492 1650">○</td> </tr> </table> <p>【講評】 地域において、中高校生世代に選ばれる施設になる工夫を検討しています</p> <p>① 日常的に児童館を利用している中学生・高校生世代が少ないことは職員調査等からも理解できました。隣接して、市の青少年活動センターがあり、利用者が選別している様子もあるようです。職員は、センターの職員と情報交換、連携しており、地域の中高校生世代のニーズや様子等を把握しています。</p> <p>② ニーズを把握した後の事業の実践があまり見られませんでした。子どもたちの希望を叶える努力があることで、次に来館につながる可能性があります。児童館では、ボランティアとして参加してもらえるような呼びかけを行っています。これも一つのニーズかもしれませんが、次につながるような働きかけが期待されます。</p>	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	—	2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○				
1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	—								
2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○								

5	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <p>1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている ○</p> <p>2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある ○</p> <p>【講評】 多様な背景を持つ子どもたちに丁寧に対応しています</p> <p>① 外国にルーツをもつ保護者で、日本語でのコミュニケーションが難しい場合があります。児童を介して保護者とコミュニケーションを取る場合もあります。微妙なニュアンスが伝わりづらいこともありますが、努力を続けています。</p> <p>② 友達との関係に悩むなど、子どもたちの相談も多くあります。職員室等を活用し、個別に対応できるように配慮しています。</p>	
6	<p>配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p> <p>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある ○</p> <p>2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている ○</p> <p>3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている ○</p> <p>【講評】 保護者との距離感を大切にしながら、支援を展開しています</p> <p>① 対面、電話、メールなどの手段を保護者に提示し、いつでも相談がしやすいような雰囲気づくりと相談にのる体制を整えています。</p> <p>② 関係機関との連携は学校や保育所を中心に実施されています。虐待等のケースに対応するためにも今後ますますの連携強化が期待されます。また、関係機関とのつながりを増やすことも求められています。</p> <p>③ 崇仁保育所が主催する「すうじんちょこちゃん」という取り組みに児童館として協力しています。児童館を利用して、1歳半検診でのスクリーニングで声を掛けられた子どもたちや発達が気になる保護者が子どもを連れてきます。相談等も実施されており、遊びによる発達支援を児童館職員が学ぶ機会にもなっています。</p>	
7	<p>地域の児童の育成環境づくりを行っている</p> <p>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している ○</p> <p>2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている ○</p> <p>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある —</p> <p>【講評】 地域の子育て支援に協力をしています</p> <p>① 保育所の園外保育を実施する場所として児童館を活用してもらっています。現在2つの保育所が定期的に利用しており、そこに在宅育児家庭の乳幼児を交えて、交流する機会を持っています。地域の子育て環境づくりに寄与しています。</p> <p>② 民生委員が実施しているサロン活動等を支援しています。また、地域の登下校を見守る「見守り隊」や交番、消防署等と連携し、地域児童を見守るようにしています。</p> <p>③ 過去、崇仁児童館は地域の関係者による運営委員会が運営をしていました。今後地域の様子が変わっていくなかで、地域住民と共に子どもの育成環境を検討する機会（運営協議会等）を児童館がつくることも求められていくと思われれます。</p>	

3 サービスの開始・終了時の対応【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】

1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	
	1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○

【講評】

保護者との個人面談等を大事にして、家庭と共に育てる意識をもっています

- ① 学童クラブ利用児童の保護者とは、個人懇談会を各家庭の事情に合わせてながら、毎年1回必ず実施しています。書類上のやり取りだけではなく、書かれている内容の確認や、書かれていない子どもや保護者の考えや意向について把握する機会です。児童の記録が残されており、支援を円滑に進められるようになっています。
- ② 個人懇談会では職員が2名ずつ入るようにしており、記録を正確にできるような体制があります。個人懇談記録が残されていますが、日々の支援内容は別の日誌に記載されており、該当児童の経過が追えません。記録の工夫が求められます。
- ③ 終了時には、児童館の自由来館が利用できることなどを説明し、不安軽減に努めています。

4 特に配慮を要する児童・家庭の個別状況に応じた計画策定・記録

1	定められた手順に従って情報収集、分析および課題設定を行い、子ども・家庭の課題を理解した個別の支援を計画している	
	1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している	○
	2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている	○
	4. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている	○
	6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
2	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	
	1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○
	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	-
3	配慮を要する子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	
	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○

【講評】

配慮を要する子どもへの対応の質を高める努力があります

- ① 障害のある児童への対応に関する個人記録が一部残されています。京都市児童館学童連盟による介助者派遣事業も活用し、マンツーマンでの対応も行われています。全ての要支援児の経過記録が不足しているように感じます。業務日誌のメモではなく、個別記録があることで子どもの成長発達をトータルで確認することができます。また、ボランティアからの引継ぎも口伝ではなく簡単でも良いので記録をお願いしましょう。記録は、勿論子どもたちのためですが、職員の任務遂行の証拠でもあります。
- ② アレルギーや宗教上制限のある児童等への対応も行っています。おやつ等についてはメニューを保護者とダブルチェックするなどの配慮があります。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○

【講評】

プライバシーの保護に力をいれています

- ① 子どもたちの着替え場面では、性別でわかるなどの配慮や多目的トイレ等での個別支援も実施しています。また、写真の扱いについて保護者と事前に同意を得たうえで、対応しています。さまざまな機関・団体と協働する事業が多いため、その機関・団体にも理解をもとめつつ、児童館職員が個別に被写体になった子どもを確認するなどしています。
- ② 子どもへの対応について館長は職員を信頼しています。とはいえ、子どもの声を直接聞く機会づくりも大事にしています。学童クラブ児が給湯室で皿洗いなどを行っている場面ではさりげなく一緒に入り、子どもの声を聞くなどの自然な形で状況確認を行い、職員にフィードバックしています。

6 事業所業務の標準化

1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○

2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
---	---

	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3	さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
	3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
	4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○
	<p>【講評】 マニュアル等を活用し、職員の業務の標準化に取り組んでいます</p> <p>① 法人独自にとりまとめたマニュアル等を適宜確認しながら、職員が提供しているサービスや業務の標準化に取り組んでいます。また法人の施設管理者との個人面談を通じて、法人としての業務の安定化や職員の意向把握にも取り組んでいます。</p> <p>② 京都市が発行している京都市児童館活動指針を活用し、市内の標準的な児童館サービスが提供できるように確認を行っています。会議だけではなく、昼食時間等も情報交換や意見を交わす機会となり、常に資質向上を目指しています。</p> <p>③ 今後は「児童館ガイドライン」を活用し、児童館活動の自己評価などにも取り組むことが望まれます。</p>	

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる	
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○
2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○
2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○
2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	○
<p>【講評】 個人情報等の重要な情報は、適切に保持・管理しています</p> <p>① 職員の個人情報については限られた役員しかアクセスできません。利用者に関しては職員であればアクセスでき、支援に役立てています。パソコンにはパスワードがかけられており、個人票などの重要な書類は物理的な鍵のかかるロッカーに収納されています。</p> <p>② 職員のみならず、実習生やボランティアに対しても個人情報の保護に関して、実習や活動前に説明をし、理解してもらっています。</p>	

総評

■特に良い点

ポイント1	経営層は人材育成を最重要視しています
内容	理事長自ら職員の個別的指導（課題レポートをもとにした面談等）を実践されています。法人としての理念を直接言葉で語りかけ、職員の思いを引き出す努力があります。職員としても良い機会になっていると感じているようです。法人が大事にしている「一人ひとりへの寄り添い」が職員に対しても実践されていることは、人材育成面から高く評価されるものです。
ポイント2	さまざまな地域の社会資源をいかし、子どもたちや保護者の活動を支援しています
内容	少子高齢化が進む地域の中で、職員は乳幼児の子育て支援活動から、高齢者の活動まで積極的に関与しています。地域住民をはじめとして、地域を支えようとする取り組みや市民活動がとても盛んです。児童館もその思いに呼応しながら、これまでなかった活動にもチャレンジしています。その姿勢が子どもたちの活動に対して効果的に反映されていくものと思われまます。

■改善が望まれる点

ポイント1	人材マネジメントに関する総合的な取り組みが期待されています
内容	法人では、高齢者施設、保育所、児童館、地域福祉センター等を運営しています。児童館部門での人材確保や人材育成は小規模なこともあり、苦勞されていると拝察しました。今後も、法人内での児童館の運営の質の向上を目指すなかでも、人材マネジメントに関して検討していくことが期待されます。
ポイント2	地域のハブ施設としての存在について議論を進める必要があります
内容	崇仁地域は、歴史的背景を持ちながらまちづくりを進めてきたところです。今後、京都市立芸術大学や高等学校の移転が予定されており、地域が大きく変貌することと思ひます。市立の拠点保育所が移転するなど、子育て支援の環境も大きく変わります。この機会に、児童館が地域のハブ施設として活躍していけるよう、職員・法人内で今後の活動の方向性を検討することが期待されています。
ポイント3	子育て支援の中核として活動していた市立保育所の移転に伴って、今後児童館が担う役割を安定的に実行するための準備が期待されます
内容	京都市立崇仁保育所は拠点保育所として、地域の子育て支援の中核を担ってきました。児童館も協力しながら、共に地域の子育て支援を支えてきました。同保育所が移転することになり、児童館が今後は地域子育て支援ネットワークの要となっていくことが期待されています。ビジョンを掲げながら、地域状況の調査（アセスメント）、計画、実行、評価が安定的に実行できるような仕組みづくりが求められます。